

6 成果と課題

仮説と具体的な手だてに基づき、各学年において単元あるいは小単元を通して実践してきたわけであるが、あくまでも一つの単元あるいは小単元での実践にすぎないが、まとめてみると次のようなことがあげられる。

(1) 成果

本調査研究では、社会科における読解力の育成をテーマとして先行事例等に基づいて研究を行い、「読み考える力の育成」と「書く話す（表現する）力の育成」の2つの視点に基づき、それぞれの視点において、それらの力を育成するための具体的な手だてを提案している。それぞれの具体的な手だてを活用して各学年において実践を行ったわけであるが、それぞれの手だてを活用した実践の詳細な分析については各実践事例を参照していただきたい。ここではそれぞれの視点について、実践事例からの成果をまとめることとする。

読み考える力の育成について

読み考える力の育成については、本研究の視点から、その手だてとして、6つの項目をあげて授業の中に工夫して取り込み、実践を行った。その結果、以下のことが分かった。

ア 資料を読み考える力を育成するには、教師がその資料の系統性を考え、学年段階に応じたさまざまな資料を明確な意図をもって教材として活用することが重要であること。

イ 資料を読み考える力を育成するには、各資料を分析的、批判的、総合的に読み解くため、各資料を読み解く技能を育成する時間を十分に確保し、段階を踏まえて具体的な指示を行って指導することが重要であること。

ウ 資料を読み考える力を育成するには、資料を提示する際に、提示のしかたやタイミングを工夫する、たとえば、個人や班、学級全体で読み取るなどの工夫が重要であること。

エ 資料を読み考える力を育成するには、資料を読み解く際に、「比較」の視点が重要であり、経験や既習学習と資料を比較したり、複数の資料を比較したりして、その中から問いが生まれてくるように授業を工夫することが重要であること。

書く話す（表現する）力の育成

書く話す（表現する）力の育成については、本研究の視点から、その手だてとして、5つの項目をあげて授業の中に工夫して取り込み、実践を行った。その結果、以下のことが分かった。

ア 書く話す（表現する）力を育成するためには、児童の発達段階に合わせて教師の明確な意図に基づいて、様々な表現活動を取り入れること重要であること。

イ 書く話す（表現する）力を育成するためには、資料から読み取ったことを必ず書く時間を確保し、書くことで振り返り、意味付けをさせるようにすることが重要であること。

ウ 書く話す（表現する）力を育成するためには、考えを深めたり、意見を交換したりまとめたりするために話す活動を重視し、グループやクラスで話し合う時間を確保することが重要であること。

エ 書く話す（表現する）力を育成するためには、テーマやポイントを絞って自分の考えを簡潔に表現する場面を設定することが重要であること。

オ 書く話す（表現する）力を育成するためには、「書く話す」技能を育てるために意図的に聞き取りなどの学習を設定したり、読み取った事実から自分の考えや疑問などを整理して書く場面を設定したりすることが重要であること。

(2) 課題

はじめに述べたように、本調査研究では、あくまでも一つの単元や小単元において実践したに過ぎず、すべての児童に確実な変容が見られたわけではない。したがってまだまだ今後の研究が必要であり、さらに努力したいと考えているが、今後の課題として以下のようなことが考えられる。

まず大きな課題として、手だてに基づいた今後の実践の継続がまずはじめにあげられよう。またそのために、手だてに基づいた系統的、発展的な指導のために各学年の学習内容を読解力の育成の視点から分析を行い、モデル的な年間指導計画を作成して位置づけることが課題であると考えられる。

次に、個々の児童の実態や能力に対応した学習の支援の方法についてのさらなる研究が必要である。本調査研究でもそれぞれの実践において、個々の児童の力に対応した方法を模索しているが、まだまだ実践も少なく、今後の研究が重要である。

最後に、「読解力の育成」は社会科だけで行うものではないことは当然のことであり、他教科や領域との有機的な関連を図ることが重要であると考えられる。そのために、その研究と実践が今後の大きな課題である。